

令和5年度地域イノベーション創出に向けた実践的教育研究推進プログラム(地域実践型学生教育授業)採択一覧

No.	部局名	代表者氏名	授業名	授業概要
1	地域学部	木野彩子	国際地域文化調査実習(創造性)Ⅰ、Ⅱ、パフォーマンス実践(ダンス・身体表現) (リサーチ、ワークショップを経てのわらべ館における公演)	<p>今後の芸術文化の普及、広まりを考えるとワークショップやファシリテーションについての実習は不可欠です。地域施設と協働しながら、鳥取の子どもたちに必要な表現活動とは何かを考えていく授業を目指します。具体的には空間設定、照明・音楽などの基本を学びながら、最終的に子どもも参加する体験型の公演を作る実践的な内容になります。前期では子どもたちの様子やできることを観察しながら、ともに遊ぶことや視点の置き換えを中心に学びます。後期には音楽やダンス、衣装やお話しを作ることを試みます。舞台制作を行うにはパフォーマンスをするだけではなく、マネジメントや広報活動なども不可欠なため、総合的に実践を通して学びます。</p> <p>昨年はワークショップ体験やストーリーテリングによる発表を経て、オリジナル影絵音楽劇『あなのあいたぼうし』を制作し、雪などの影響を受けましたが100名近い親子に見ていただきました。映像配信も行い、2月18日までわらべ館youtubeチャンネルにて公開しました。</p>
2	地域学部	塩沢 健一	地域調査プロジェクト(地域創造コース)	<p>地域学部地域創造コース2年次必修科目(通年)「地域調査プロジェクト」は、倉吉市をフィールドに地域の現状や課題を調査し、地域の在り方や地域創造の方途を探究するPBL型の授業である。まずは地域に入る前に予備的知識をインプットし、履修者全員で現地エクスカージョン(5月)を実施する。そして、学生の関心に応じて6~7つのグループに分かれて調査を行う。なお、R4年度は、市民意識調査の分析と政策の評価(小野・白石)、文化資源を活かした地域の活性化(筒井・馬場・大元)、地域や生活の構造(村田・竹内)、打吹地区における観光振興と空き家問題とその利活用(山下・川口)、白壁土蔵群地区における官民協働のまちづくり(多田・塩沢・佐藤)、共生や連帯のコミュニティづくり(竹川・菰田)、暮らしのなかの権利と権力(丸・稲津)という7つのグループに分かれた(カッコ内は担当教員)。最後に、地域住民を招いて現地報告会(2月開催)を行い、住民と意見を交換し、いっしょに地域の未来について議論する。さらに調査成果は300頁超の報告書としてまとめ、市役所や地域住民などの調査協力者に配布するとともに、市内のコミュニティセンターや県内の図書館等に寄贈する。R5年度のグループは未定だが、過去のテーマや地域の現状などを踏まえて、グループ分けを行う予定である。</p>

No.	部局名	代表者氏名	授業名	授業概要
3	地域学部	竹内潔	融合ラボ(主に3回生) (地域社会の記憶と文化のためのメディアプロジェクト)	この授業は、令和3年度戦略3重点プロジェクト(取組1-1)テーマ⑤「芸術文化の拠点形成」活動②「移動するゼミによる居候型サテライト・キャンパス試行プロジェクト」で中心적으로取り組んできた、地域社会の文化や記憶を記録するためのメディアのあり方を探求する試みを継続・発展させる。地域の固有価値を活かした地方創生へ向けた教育・人材育成を行う。そのために、分野横断型の合同ゼミである「融合ラボ」の授業枠組みを活用し、引き続き「にんげん研究会」として活動する。具体的には、引き続き湯梨浜町の文化交流拠点「たみ」のと連携し、各種メディアを用いて地域の記憶を記録する方法を学生・教員・社会人等が共に探ることを柱としながら、月1回の「定例にんげん研究会」、立教大学と合同で開催する「にんげん研究相談会」を実施する。
4	地域学部	竹川俊夫	基礎ゼミ (中山間地域における住民主体の持続的なコミュニティづくりを学ぶ)	本授業は、地域学部地域創造コースの1年次必修科目「基礎ゼミ」を、人口減少と少子高齢化が顕著に進む兵庫県豊岡市竹野南地区と連携して実施するものであり、テキストを用いた座学と原則月1回の竹野南地区でのフィールドワークを通じて、中山間地域が抱える地域課題やその解決に向けた地域づくり実践を統合的に理解することを目指す。 本授業の対象は1年生(10名程度)であり、入学初年度から地域に出向いて住民が取り組む様々な活動に参加しながら地域を幅広く学ぶことで、2年次以降の専門的な学びの土台を形成する。一方、地域においては、学生の斬新な視点や発想から地域づくりの可能性を広げ、特に若年世代の関係人口の増加に学生と共に取り組むことで、地域の持続可能性向上も期待される。
5	地域学部	白石秀壽	基礎ゼミ	地域学部地域学科地域創造コース・1年次必修科目「基礎ゼミ」は、地域創造コース1年生の約60名のうち、10名弱が履修する少人数形式の授業である。本授業では、県内の企業と連携・協働し、企業が抱える課題について、マーケティングや経営学の理論やツールを用いて、解決策を立案しプレゼンテーションを行うというPBL形式の授業を実施する。R5年度は、八頭町の隼ラボにオフィスのある株式会社ダブルノットと連携し、同社の抱えるマーケティング課題を解決する戦略を立案・提案することを目指す。前半はテキストの輪読を通じて、マーケティングの基本的なツール(STPやマーケティングミックス、SWOT分析)を学習し、後半は、講師によるレクチャー、ワークショップ、ヒアリング調査を実施し、企業の抱える課題を発見し、それを解決しうるマーケティング戦略を練る。

No.	部局名	代表者氏名	授業名	授業概要
6	地域学部	菰田レエ也	ワークショップ入門(主に2回生) (地域の協働とデジタル媒体を活用した学生の主体的な表現教育の場)	この授業では、デジタル媒体を活用した取材・執筆・発信をする学習機会を提供することで、学生が自己肯定感を高め、主体的で創造的な表現力を身につけることを目標としている。この機会を創出するために、多様な地域のアクターと連携していく。具体的には、鳥取県内にある様々なボランティア活動・NPO・協同組合を仲介可能である中間支援組織(とっとり県民活動活性化センター)とHPの作成・保守・更新の専門家である『+〇++〇』編集部と連携し、地域課題の最前線で模索する人々と学生をつなぎ、ファンリテーション等の手法を活用し、交流を促す。 また、「ワークショップ入門」の授業には、地域学部地域創造コースの2回生、および1~4回生の希望者らが参画する。将来的に学生主体で管理することを目標として「I wonder」というWebサイトを通じて情報を発信していく。
7	医学部	尾崎 米厚	社会医学チュートリアル・実習 (米子市における生活習慣改善とフレイル予防を目指した地域健康教室、健康相談)	学外の地域の現場で学ぶ社会医学チュートリアル実習の一環で、米子市において住民の健康意識の向上とフレイル予防・介護予防を目指して、生活習慣改善とフレイル予防についての地域健康教室を実施する。学内で事前学習し、血圧と骨密度測定の演習をし、学生手作りの教育媒体による健康教室の準備をする。米子市の住民からの希望のあった集会所に 米子市スタッフと学生が出向き、生活習慣改善とフレイル予防についての健康教室とフレイル予防体操の実践、血圧・骨密度測定、健康相談を実施する。健康教室時とったアンケートを集計分析し、米子市スタッフへ還元する。実習の最後には、学内の発表会を行い、実習成果を学生同士で共有する。
8	医学部	尾崎 米厚	研究室配属 (鳥根県の中山間地における地域医療実習)	限界集落を有する中山間地域で実現可能な地域包括ケアの在り方を明らかにする問題解決学習である。地域医療、へき地医療、浜田市弥栄町の実態に関する文献検索、事前学習を通して、山陰の中山間地域における地域医療に関する調査研究課題を学生各自が持てるように準備する。現地フィールド調査ツアーでは、中山間地に宿泊し、地域医療の現場を視察、体験する中で、地域医療スタッフ、保健医療福祉関係者、患者・地域住民への観察調査、インタビュー調査等を行い、調査研究テーマに関する知見を収集し、集計分析する。結果の解釈については、グループディスカッション、関係者、教員との協議を通して考察を深める。調査結果は現地関係者へ還元する。鳥根県地域枠に限らず地域医療に関心のある幅広い学生を募集する。

No.	部局名	代表者氏名	授業名	授業概要
9	医学部	金城 文	社会医学チュートリアル (大山のびのび道草プロジェクト)	令和4年度に医学科4年生16名が鳥取県大山町大山小学校区を訪問し、地域自主組織まちづくり大山と共に、子どもとの交流、保護者へのアンケート、子育て支援関係者へのインタビューを行った結果、大山地区では子どもの数が少なく、集落間の距離が離れていて放課後子ども同士で遊びにくいこと、バス通学で運動の機会が減っていること、ボランティアが高齢化していること、などが課題として挙げられた。これらの課題への対策として、令和5年度は大学生が下校時刻に大山小学校を訪れ、希望する1～2年生児童と一緒に、大山公民館分館まで歩いて移動し、放課後の時間を一緒に過ごせる居場所づくりを行う。大山公民館分館で過ごす時間は、各児童の自由であるが、大学生を中心に、外部講師も活用して、児童や保護者の意見を聴取しながら、健康や運動に関する企画を用意する。山間部の子どもたちの放課後活動を支援する。
10	医学部	桑原 祐樹	社会医学チュートリアル (松江市の学校・地域と連携した学童期、思春期の望ましい生活習慣づくりとメディアコントロール対策)	松江市東出雲町で実施されている小児期からの生活習慣病対策、学校保健活動に参加し、児童生徒に対してアンケート調査を実施し、分析結果をもとに保健教育を行う。松江市津田小学校の学校医健診に同行し学校医や学校保健スタッフと意見交換をする。実習期間を通じて医学生が以下を習得することを目指す。1.児童生徒の健康・生活の実態を把握する。2.学校保健活動、学校医の役割と活動内容を理解する。3.小児の生活習慣づくりの課題を出し改善策を考案する。4.学校と連携し中学生と共に効果的な健康教育を立案、実施する力。5.アンケート調査の基本的な集計、分析手法を身につける。最後に実習の成果をまとめ、学年で発表を行う。
11	医学部	森田 明美	社会医学チュートリアル実習 鳥取県の健康づくりの評価と今後の対策 (鳥取県の健康づくりの評価と今後の対策)	わが国では、健康対策の柱として「健康日本21」が推進されており、その第二次計画の評価報告が昨年10月には発表された。令和6年度からは、次期国民健康づくり運動プランが開始される予定である。これらの健康づくり計画は、自治体にも同様なプランを策定し実行することが課されており、鳥取県では「鳥取県健康づくり文化創造プラン」として策定され、健康づくりが推進されている。現在第三次計画の評価と次期計画の策定が実施されているが、そのためには現状の分析が必要であり、県民栄養調査として実施された内容の解析、報告がなされる予定である。本授業では調査のデータ分析や、健康づくり対策に参加することにより、地域の実情を把握し健康対策を立案するための基礎的な素養を得る。担当学生は10人程度の予定である。

No.	部局名	代表者氏名	授業名	授業概要
12	医学部	天野 宏紀	社会医学チュートリアル実習 (地域在住高齢者の認知症対策～琴浦町での取り組み～)	琴浦町で実施されている地域高齢者を対象とした認知症の予防・介護に関する活動に参加し、実践的な体験を通して地域での認知症対策について理解を深める。学内での認知症に関する事前学習の後、現地実習では町スタッフによる健康福祉行政の概要説明、町内の医療福祉施設見学、町が実施する「もの忘れ相談」での認知症専門医の診察見学、介護予防サークル等地域活動・介護予防教室(認知症予防)への参加およびアンケートの実施、認知症予防教室の企画・運営を行い、アンケート集計分析結果等実習で得られた成果をサークル等地域活動・教室参加者等へ発表・還元する。実習の最後に現地実習での実習成果をとりまとめて学内の発表会で他の実習班の学生と成果を共有する。
13	医学部	野口 佳美	統合実習 (地域活動「子ども食堂」参加型実習を通して地域の連携・協働について考える)	統合実習の目的は、「これまでに獲得した知識、技能、態度等を総合的に活用して、実践の場における現象を論理的に分析、理解するとともに、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につける。」ことである。令和4年度に引き続き、今年度の合実習でも、地域活動である「子ども食堂」の活動に参画し、地域の人と協働した支援活動を通して、地域創生、地域活性化の取り組みについて理論的かつ実践的に学ぶことを目的にしている。 実施期間:6～8月 実施内容:「子ども食堂」での食事準備、「学習支援」での学習指導、「自然を体感する会」での子どもの見守り、子育て講座への参加など
14	工学部	小野 勇一	実践プロジェクトⅠ、実践プロジェクトⅡ、ものづくり実践プロジェクト (地域課題を題材とした実践型ものづくり教育)	地域企業との連携により、製品開発を伴うPBL型の授業である「実践プロジェクトⅠ・Ⅱ」および「ものづくり実践プロジェクト」を実施します。これらの授業では、協力企業が提示する問題や課題に対して受講生グループが主体となってその解決に挑戦し、新製品やソリューションの設計・試作・評価などの実践的な活動に取り組みます。 今年度の授業では、鳥取県が主催するとっとりDX推進ラボの参画企業らとの連携のもと、IoT、AIなどの先端ICT技術を用いた製品開発などをテーマとして扱う予定です。

No.	部局名	代表者氏名	授業名	授業概要
15	農学部	田村 純一	農芸化学実験Ⅲ,Ⅳ (地域天然資源(海藻)の有効活用)	フコースは生命現象を左右する生命体には不可欠な糖で、血液型物質や機能性糖タンパクの構成糖である。医薬品の開発やバイオテクノロジー分野の研究で多用されているにもかかわらず、たいへん高価である(富士フイルム和光11,000円/1g)。海藻に含まれるフコイダンはフコースの直鎖多糖で、その多くの水酸基が硫酸化されており、種々の特異的生理活性を発現する。本申請科目は農学部農芸化学コースで開講され、申請者らは有機化学分野を指導する。フコイダンをフコースの資源になることに着目し、モズクをはじめ種々の海藻に含まれるフコイダンを加水分解してフコースを単離精製し、地域資源となる海藻の探索を自らの手で発掘する体験を実践させる。その結果を地域に公表して還元し、プレゼン能力を涵養する。
16	農学部	松村 一善	食マネジメントⅠ・Ⅱ, 食マネジメント演習 ほか関連科目群 (地域連携による6次産業化支援人材育成プログラム)	本プログラムは講義と演習で構成されており、育成プログラムを構成する全科目の単位(16単位)を修得することをプログラムの修了要件としている。講義・演習は食プロレベル1からレベル3の資格認定で求められる内容を網羅しており、本プログラムを修了した者は、食の6次産業化プロデューサー レベル3へのレベル認定申請が可能となる。
17	農学部	山中啓介	里山生態実習Ⅱ(エコツーリズム) (真冬の里山での体験活動をとおりて地域エコツーリズムの実施技術を学ぶ。)	中山間地域に存在する里山は過疎高齢化が進行しているが、木材、バイオマス、観光といった資源に恵まれている。本授業は、里山を活用した中山間地域の活性化を担える人材育成を目的とする。とくに、行動が制限される積雪地での実践的な教育活動をとおり、知識と実践技術を併せ持つ人材の育成を目指す。具体的な活動として、積雪地で安全に行動するため、クロスカントリースキーやスノーシューを使用する実践技術を習得する。また、里山の木材資源や生態系機能の把握ができるよう、冬芽による樹木の識別技術を身に着ける。さらに、森林資源の利活用についてその実践技術(薪割り、雪上火起こし、薪ストーブ)を習得する。また、針葉樹人工林の雪害観察を行い、森林の気象害の様子を理解する。
18	農学部	菅森義晃	地域連携による里地里山基礎教育実習プログラム (現場体験を通して地域課題を考える)	本プログラムでは、里地里山環境管理学コースの科目を用い、鳥取県における課題である経済の発展や中山間地域の活性化を担える人材育成を目指し、「地域自然を生かした観光」や「林業」による経済振興や、「自然の力を利用した中山間地域における農業の省力化」を実践できる人材育成を目的とする。具体的には、山陰海岸ジオパークや国指定名勝において、地形・地質・動植物の観察を通して、その価値や利活用法を身につける。また、人工林の材積測定から間伐法の選定、そして、立木の伐倒を体験し、林業の実践力を身につける。加えて、中山間地域の農場において、農業労働力の不足を補うと期待される畦畔草刈りの省力化技術を身につける。